

地方経済情報 Weekly No.447

緑の流域治水スタディツアーを通じた地域社会への貢献

1. 「緑の流域治水」を学ぶスタディツアー

当研究所は、令和2年7月豪雨で被災した球磨川流域における「地域共創型の流域治水の研究」に参画しています。その一環として、流域治水の技術や考え方に加え、地域資源や産業と連携した取組みを学ぶ「緑の流域治水※1スタディツアー」（以下、ツアー）を実施しています。

2024年10月より、ツアーの内容をブラッシュアップし、国内外の方に向けて体験型コンテンツを追加しました。その内容は、森林管理の重要性を学ぶ「植樹」や生物多様性を保全するための「湿地管理」、豪雨被害を川から確認できる「カヤック体験」等となっています。

2. モニターツアーの実施

体験型コンテンツの満足度を測るため、10月4日から2泊3日でモニターツアーを五木村で実施しました。台湾の半導体企業の従業員とその家族を対象に植樹体験（図1）や地域の食材を使ったバーベキュー体験（図2）を実施しました。

3. ツアー磨き上げと地域社会への貢献

当研究所は、今回のモニターツアーの結果（図3）を踏まえ、地域共創型の流域治水の学習だけでなく、体験型コンテンツを通じてその重要性を体感できるツアーとして磨きをかけていきます。今後はツアー参加者の満足度をさらに向上させ、流域治水と観光を通じた地域社会への貢献に取り組んでいきます。

※1 緑の流域治水とは（緑の流域治水研究機構 HP） <https://www.midori-lab.pu-kumamoto.ac.jp/>

【図1】 ツアーの植樹体験



写真：当研究所撮影

【図2】 ツアーのバーベキュー体験



写真：当研究所撮影

【図3】 モニターツアー参加者の声

参加者の声

地元の人が、自分たちの地元の環境に関心を持っていることが珍しいと感じた。地元への愛着を感じた。

流域治水の勉強ができることがよかった。社内にも興味を持つ人がいると思う。

とてもきれいな場所だが、少し遠いので観光に来にくい。PRすれば来てくれると思う。

ツアーに参加して植樹をただで終わらず、自分たちでも雨を浸透させる取組みをしたい。

<ツアーに関するお問合せ先>

(公財)地方経済総合研究所 研究開発部 田上
TEL : 096-326-8625 Mail : tanoue@rer.i.or.jp
緑の流域治水スタディツアー (当研究所 HP)
<https://www.reri.or.jp/studytour/>

担当：研究員 田上 樹